

橘町の見どころ

まちの歴史シリーズ ②⑤

橘町HP <https://tachibana-net.jp> **歴史・史跡** クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和6年7月1日
責任者：國平 安治
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

だいにお よしのかつみ
大日区長 吉野勝美さん



★印番号の解説

★① 橘町と長島庄

いちばんめ じつもん たちばなちょう
一番目の質問。なして橘町
って名のついとーとや？



橘氏の紋

先月号は、ごちゃごちゃして
むつかしかったバイ。

せんごくじだい
沖永の区長さんから**戦国時代**
のことバ、バトンされたバッテ
ン、今回もややこしか。

しつもん
タッパ君に質問すっけん、
せつめい ねが
説明バお願いすっパイ



「たっぱくん」

たちばな よ
「橘」と呼ぶようになったのは、
めいじじだい
明治時代からだよ。橘とつけたの
は、しおみじんしゃ おやがみ たちばなし
潮見神社の祖神『橘氏』の
せい
姓をとったから。へいあんじだい
平安時代から
むらまちじだい ながしまのしょう
室町時代は「長島庄」と呼ばれて
いたんだ。

★② やってきた橘氏と分家

しぶえ だれ
橘氏と渋江氏って誰のこと？



「たっぱくん」

まへ
1237年(今から800年ほど前)に
ながしまのしょう おさめ
長島庄を治にやってきたのが
たちばなきんなり
橘公業さん。その息子の時代に
よんげ ほんげ しぶえ
四家に分かれて、本家は「渋江」
と姓を変えたんだ。
(詳しくは次回以降の号)

★③ 後藤氏

ごとう てんか
武雄はずっと後藤さんの天下やったと？

きんなり
いいえ。公業さんが、こっちにやっ
て来た時、ごとう ながしましょう
後藤さんは、長島庄の
いちぶ かんり やくにん
一部を管理する役人さんだったら
しいんだ。(武雄市史)



後藤貴明像

かまくらじだい まへころ
そいぎー、鎌倉時代(800年前頃)は、橘を
たけおししゅうへん たちばなし いちぞく てんか
含めた武雄市周辺は**橘氏一族の天下**やっ
たとたいの～！！ **ここ大事**
注) 支配をわかりやすく「天下」と表現しています

こんかい せんごくじだい
今回は、戦国時代(あの有名な信長などが活躍
した時代)に**ごとうし**
後藤氏がどうやって橘町の**しはい**
支配者になったかということをつつめい
説明するよ。

かまくらじだい ながしまのしょう
●鎌倉時代の**長島庄**(今の橘町を含む地域)

★①に橘氏がやって来てその**しはいしや**
支配者になり、子
孫は4家に分かれる★②んだけど、そこには
ごとう
後藤氏★③など、前からの**せいりよく**
勢力もいたんだ。

じだい しぶえきんなり
●時代がくだって13代**しぶえ**公勢★④のとき
せいりよくさいだい
勢力最大となるんだけど・・・。
(以上の鎌倉から室町時代は、次回以降の号になるよ)

すみあきら たちばなし
●あるとき★⑤後藤氏18代の**純明**は橘氏
の**ひつみじょう** 日鼓城を攻める★⑥んだ。この時から長島
庄の**しゅやく** 主役が後藤氏に移っていくんだ。

●公業さんがやってきてから日鼓城を攻めら
れるまで**290年もの間**、**橘一族**が**長島庄**の
しゅじんこう 主人公だったんだね。

いへ そんぞく
●この後、後藤氏はお家の**そんぞく** 存続のために、つ
ぎつぎとよそから**ようし** 養子★⑦をもらうんだ。

す あらわ うら せんごく
●それを図で表したのが裏の図★⑧。戦国
まつき しおみじょう ありま かんらく ごとう
末期、潮見城が有馬氏にまけて**かんらく** 陥落。後藤氏
が完全に長島庄域を**しはい** 支配するけど、その
かんぜん しょういぎ しばい
後、後藤氏は龍造寺に属するようになるよ。

★④ 渋江公勢と橘公業

えー!!どっちも「きんなり」さんヤア?

最初にやってきたのは橘氏初代の公業さん。その後橘氏が四家に分かれて長島庄を治めるけど、一番勢力を拡大したと言われる時の殿さまが13代渋江公勢さん。おなじ読みなのでややこしー!

注) 地頭職をわかり易く殿さまと表現しています



そいぎ後藤氏は橘氏の親戚でもあーとたいね。(下図で薄い青色に着色が橘系)

★⑦ 次々と養子をもらう

図の② 次に純明にも子供がいなかったんで、18代貴明が大村から養子にきた。(この人も長男)貴明は長男なのに養子に出されたので、本家の大村を取り戻そうと、たびたび大村を攻めるんだヨ。(下図紫色)

注) 貴明が大村を攻めた理由は、「惣領としての旧領地支配のため」「貴明についてきた大村旧臣が、キリスト信仰を進める大村氏を嫌ったため」など諸説があります。

★⑤ あるとき

あるときって、いつンことね?

公業さんが、勢力をのばしている時の1527年に「日鼓城の悲劇」がおこるんだ。日鼓城は若木にあって、公業さんと息子の公政さんが毒にあたって死んでしまったんだ。

(「渋江由来記」による。由来記は江戸中期に記録)

★⑥ 後藤純明の城攻め

なして純明さんは日鼓城バ攻めたと?

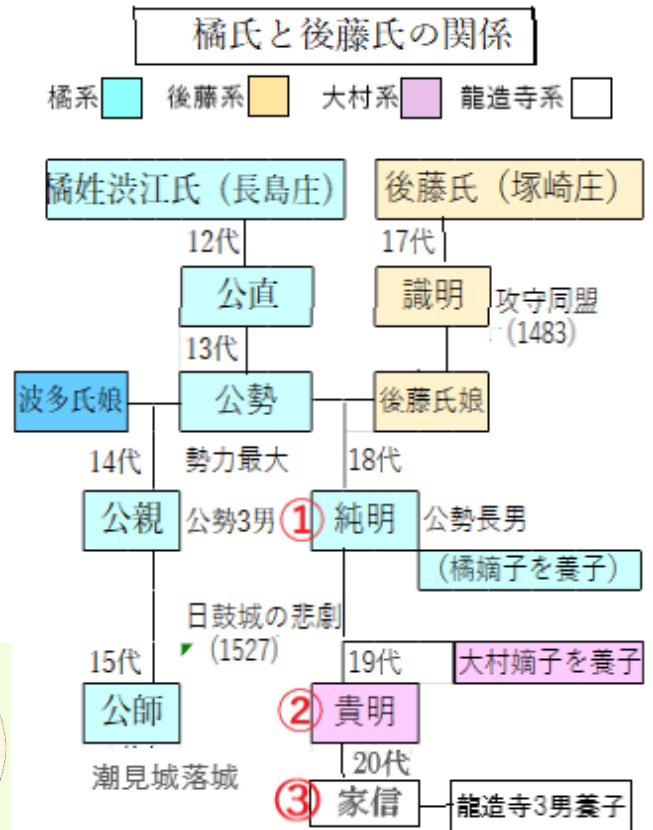
後藤の殿さまは、渋江公勢の長男。後藤に養子に行って純明と名乗っていたんだ。義父の後藤識明に子供がなくて、妻の実家、つまり渋江から養子をもって18代になっていた。(右図①参照)

純明は日鼓城の混乱(悲劇)を「チャンス!!注」と弟の公親を攻め落とした。(渋江由来記)

注) 中島信夫氏は「公親の母の里、波多氏の勢力が長島庄に及ぶのを恐れたのでは」としています。また戦国の世ですので「純明は実家の勢力範囲を自分の領地に取り込もうとした」とも考えられます。

図の③ さらに貴明も平戸の松浦氏から養子をもらうんだけど、養子息子の惟明の乱にあい、龍造寺隆信の支援をうけた。その結果、龍造寺から家信を受けて家督を継がせたんだ。(下図白色)

★⑧ 後藤氏が次々と養子をもらう関係図



今号は中島信夫著「橘町の歴史」を基に作成しました



今回ご紹介した時代は『戦国時代』でした